

令和元年度
岡山県、瀬戸内市
学力・学習状況調査結果の概要

○実施日 平成31年4月18日（木）

○調査概要

校種	学年	調査種類	実施調査
小学校	3年	岡山県	国語、算数
	4年	岡山県	国語、算数
	5年	岡山県	国語、算数、児童質問紙
中学校	1年	岡山県 瀬戸内市	国語、数学、生徒質問紙 社会、理科
	2年	岡山県	国語、数学、英語、生徒質問紙

令和元年9月

瀬戸内市教育委員会

学力調査結果の概要

1 平均正答率

※評価の記号は、全国の正答率に対し、3ポイント以上上回っているもしくは下回っているものを示しています。

△・・・全国平均を上回る ≍・・・同程度 ▼・・・全国平均を下回る

小3	国語			算数		
		基礎	活用		基礎	活用
瀬戸内市	75.9	77.8	68.3	73.2	78.4	48.3
全国	73.7	75.7	65.5	74.5	79.5	50.5
評価	≍	≍	≍	≍	≍	≍

小4	国語			算数		
		基礎	活用		基礎	活用
瀬戸内市	67.1	70.6	51.6	71.9	77.6	52.1
全国	68.1	71.3	53.7	74.6	80.2	54.7
評価	≍	≍	≍	≍	≍	≍

小5	国語			算数		
		基礎	活用		基礎	活用
瀬戸内市	73.7	76.1	62.7	68.4	73.3	49.0
全国	73.8	76.6	61.2	67.3	71.8	49.2
評価	≍	≍	≍	≍	≍	≍

中1	国語			数学			社会			理科		
		基礎	活用		基礎	活用		基礎	活用		基礎	活用
瀬戸内市	69.0	71.9	59.6	71.5	74.6	60.7	65.2	66.5	59.0	62.5	69.0	48.1
全国	70.4	73.1	61.5	71.9	74.1	64.2	63.6	64.6	58.5	61.4	67.3	48.3
評価	≍	≍	≍	≍	≍	△	≍	≍	≍	≍	≍	≍

中2	国語			数学			英語		
		基礎	活用		基礎	活用		基礎	活用
瀬戸内市	70.0	70.5	68.5	62.6	67.4	43.7	63.1	68.6	49.1
全国	66.4	67.2	63.8	53.7	58.6	34.2	61.5	67.2	47.4
評価	△	△	△	△	△	△	≍	≍	≍

2 学力調査結果のまとめ

【小学校（国語）】

- 漢字の読み書きについては、どの学年においても高い正答率であった。「読むこと」の目的や必要に応じて、登場人物の気持ちを読み取る設問（小3、5）では、昨年に引き続き高い正答率であった。しかし、「書くこと」の自分の考えが明確になるように文章を書く設問（小3、4、5）、指定された長さで文章を書いたり、段落を分けて書いたりする設問（小4、5）に引き続き課題がみられた。

【小学校（算数）】

- ある時刻から一定時間後の時刻を求める設問（小3）、「図形」の円の半径、直径についての設問（小4）、「数と計算」の小数÷整数＝小数第二位の計算、「図形」の四角形の対角線の性質についての設問（小5）において昨年に比べて正答率が上がった。しかし、「数と計算」の数の大小と不等号の意味についての設問、基準となるテープの3倍の長さのテープを選ぶ設問（小3）、「数と計算」の2けた×2けた＝4けたの計算、「量と測定」の地図から道のりを読み取って、その和を求める設問（小4）、数直線上に示された分数を読み取る設問、身近にあるもののおよその面積についての設問（小5）に課題がみられた。

【中学校（国語）】

- 「書くこと」の読み取った内容を明確にして書く設問（中2）、「読むこと」の文章の表現の特徴をとらえる設問（中2）において、昨年に比べて正答率が上がった。しかし、「読むこと」の登場人物の心情をとらえる設問（中1）、「書くこと」の指定された長さで文章を書いたり、段落を分けて書いたりする設問（中1）に課題がみられた。

【中学校（数学）】

- 2年生については、全体的にどの領域の設問についても県、全国の平均正答率を上回っている。特に、「関数」、「資料の活用」の設問については、大きく正答率が上がっている。しかし、「数量関係」の百分率、歩合について理解し、割引後の代金を求める設問、比の考えを利用して、必要な量を求める設問（中1）については課題がみられた。

【中学校（社会）】

- 全体的にどの領域の設問についても全国の平均正答率を上回っている。「我が国の歴史」に関する設問では、昨年に比べて正答率が上がった。しかし、「我が国の政治」の日本国憲法で定められている国民の義務についての設問に若干課題がみられた。

【中学校（理科）】

- 「物質・エネルギー」領域の設問については、どの設問も全国の平均正答率を上回っている。しかし、「生命・地球」領域の「月と太陽」の三日月が見える時間について説明する設問、「動物のからだのつくりとはたらき」のはき出した空気がふくろの内側を白くもらせることについての設問に課題がみられた。

【中学校（英語）】

- 「書くこと」の単語の並びかえによる英作文、場面に応じて書く英作文において、昨年に比べて正答率が上がった。しかし、「読むこと」の長文を読み、内容を把握する設問、読み取った内容を踏まえて英文を完成させる設問に課題がみられた。

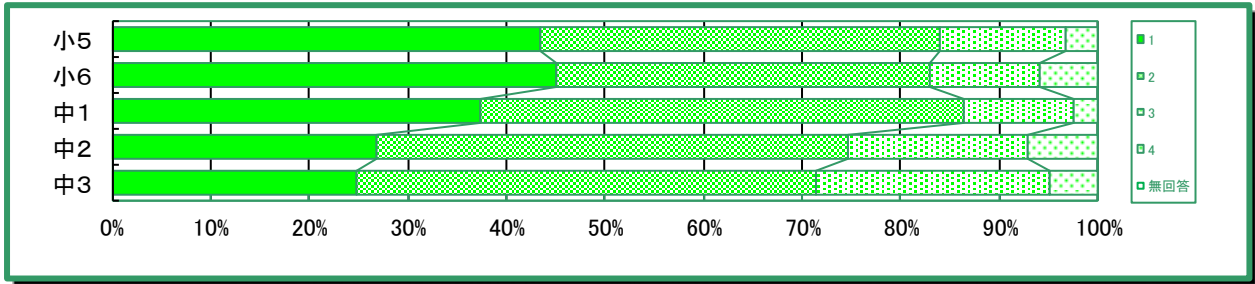
学習状況調査結果の概要

(※小6、中3は全国学習状況調査の結果)

1 質問項目別の傾向

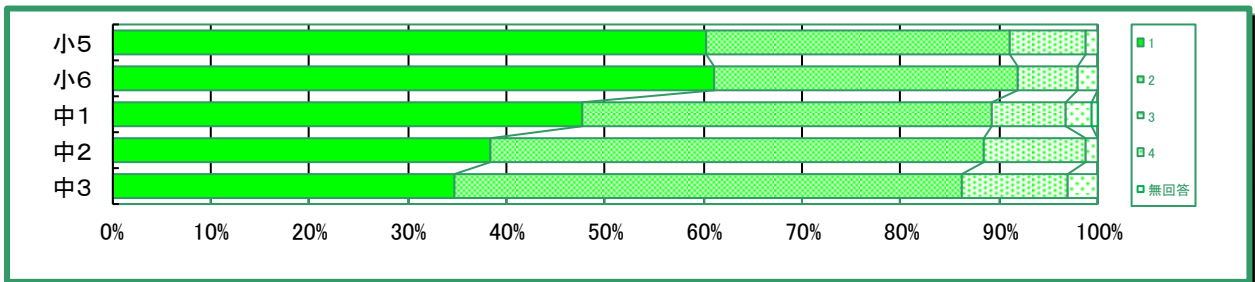
(ア) 自分には、よいところがあると思う。

	1 あてはまる	2 どちらかといえば、 あてはまる	3 どちらかといえば、 あてはまらない	4 あてはまらない	無回答
小5	43.4	40.6	12.7	3.3	0.0
小6	45.1	37.9	11.1	5.9	0.0
中1	37.3	49.1	11.1	2.5	0.0
中2	26.9	47.8	18.2	7.1	0.0
中3	24.7	46.7	23.7	4.8	0.0



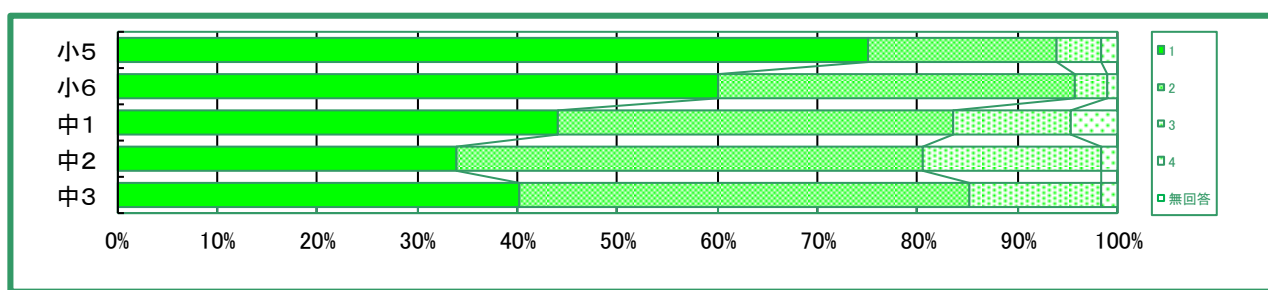
(イ) 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

	1 あてはまる	2 どちらかといえば、 あてはまる	3 どちらかといえば、 あてはまらない	4 あてはまらない	無回答
小5	60.2	30.7	7.8	1.2	0.0
小6	61.1	30.7	6.2	2.0	0.0
中1	47.7	41.6	7.5	2.5	0.7
中2	38.3	50.2	10.3	1.2	0.0
中3	34.7	51.5	10.7	3.1	0.0



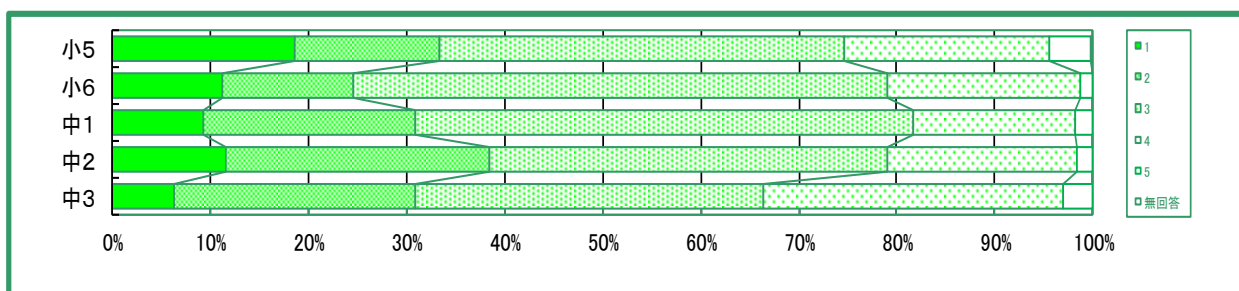
(ウ) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。

	1 あてはまる	2 どちらかといえば、 あてはまる	3 どちらかといえば、 あてはまらない	4 あてはまらない	無回答
小5	75.0	18.9	4.5	1.6	0.0
小6	60.1	35.6	3.3	1.0	0.0
中1	44.1	39.4	11.8	4.7	0.0
中2	34.0	46.6	17.8	1.6	0.0
中3	40.2	45.0	13.1	1.7	0.0



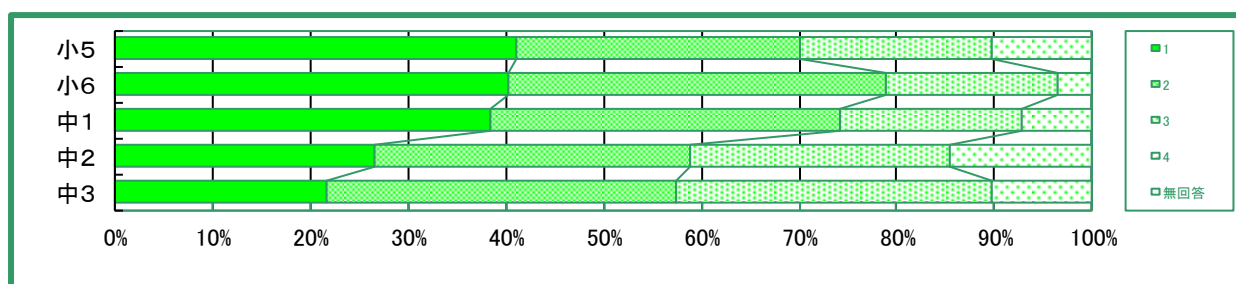
(エ) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていましたか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）

	1 3時間以上	2 2時間以上 3時間より少ない	3 1時間以上 2時間より少ない	4 1時間より少ない	5 全くしない	6 無回答
小5	18.5	14.8	41.4	20.9	4.1	0.4
小6	11.1	13.4	54.6	19.6	1.3	0.0
中1	9.3	21.5	50.9	16.5	1.8	0.0
中2	11.5	26.9	40.7	19.4	1.6	0.0
中3	6.2	24.7	35.4	30.6	3.1	0.0



(オ) 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

	1 あてはまる	2 どちらかといえば、 あてはまる	3 どちらかといえば、 あてはまらない	4 あてはまらない	無回答
小5	41.0	29.1	19.7	10.2	0.0
小6	40.2	38.6	17.6	3.6	0.0
中1	38.4	35.8	18.6	7.2	0.0
中2	26.5	32.4	26.5	14.6	0.0
中3	21.6	35.7	32.3	10.3	0.0



2 学習状況調査のまとめ

「自分にはよいところがある。」と肯定的に答えた児童生徒は約8割程度である。「先生がよいところを認めてくれる。」と答えた児童生徒は約9割程度、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」と答えた児童生徒は、小学校では9割以上と高く、中学校でも8割以上である。しかし、「授業以外に、1時間以上勉強している」と答えた児童生徒の割合はあまり高くなく、中学校では学年が上がるとともに割合が減っている。「自分で計画を立てて勉強している」と答えている児童生徒については、どの学年も昨年に比べて高くなっており、各校での子どもの計画力を高める取組の成果がみられる。学力をさらに向上させるためには、児童生徒が帰宅後の学習計画を立てたり、自分で課題を決めて自主学習に取り組んだりできるよう各学校での取組をより充実させていくことが有効であると考え。瀬戸内市が進めている「主体的に学びに向かうことのできる子どもの育成」に向けて、「めあての質の向上」と「授業と家庭学習の連携」を軸に、さらに授業の充実及び子どもの計画力を高めるための取組を進めていきたい。